

第5回 第9章 (工事原価の部門別計算 1)

本日のテーマ

①実はあまり出題されていない

1 5回 1問→補助部門費配賦の各方法の特徴

1 7回 4問→部門別原価計算 (直接・階梯式・連立方程式)

総合問題は1部門の差異分析のみ。→通常 of 製造間接費の差異分析と同じレベル

テキストのボリュームは大きいですが、基本的論点のみ押さえれば大丈夫

②部門共通費の配賦を2級過去問で確認しよう

(部門費配分表)

2級 15回 3問

③補助部門費の配賦 (直接・階梯式・連立方程式)

1級 17回 4問

相互配賦法は2級過去問 20回 4問で確認

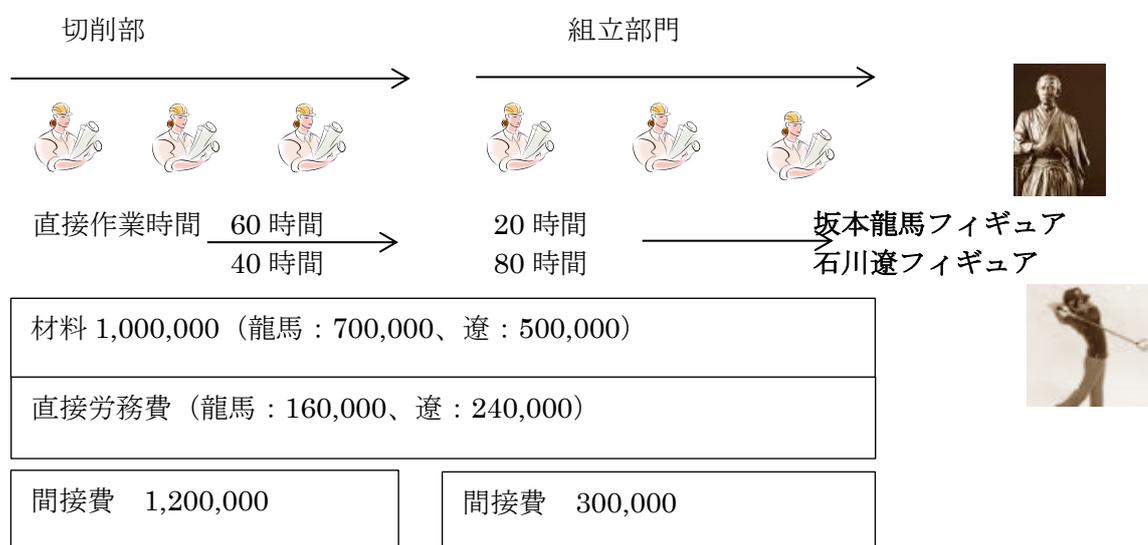
①部門別計算の意義と製造業との違い

製造業→工場の中で色々なものを作る
製造間接費の配賦が重要

建設業→現場毎に工場があるイメージ
工事別の外注や作業体制をもつケース多い→工事直接費多い
∴製造間接費は発生しにくい
共通費の配賦と重機などの配賦が中心になる

②製造業の部門別計算のイメージは一応確認しておこう（一般的配賦計算）

<「日商2級フリーテキスト講座」を少しアレンジします>
まずは下の図を確認して下さい。



これを（直接作業時間）で一括配賦すると

$$\text{間接費 } 1,500,000 \div 200 = @7,500$$

$$\text{龍馬 : } 7,500 \times 80 = 600,000 \quad \text{遼 : } 7,500 \times 120 = 900,000$$

	坂本龍馬フィギュア	石川遼フィギュア	合計
材料費	700,000	500,000	1,200,000
労務費	160,000	240,000	400,000
製造間接費	600,000	900,000	1,500,000
合計	1,460,000	1,640,000	3,100,000
完成品数量	1,000	1,000	
完成品単位原価	1,460	1,640	
売価(2割乗せ)	1,752	1,968	

この資料を元に取り締役会を開き、営業部でローラー作戦を実施しました。
でも石川遼Fは売れず、坂本龍馬Fは売れまくりました。
なのに、経営（資金繰）は苦しくなるばかり

なぜ、こんな結果になったのでしょうか？

ここに部門別原価計算の必要性があるのです

さきほどの原価計算を部門別に計算してみましょう

間接費の計算がわかります（直接費は龍馬・遼ともに計算方法はわかりません）

<切削部門>の間接費の配賦

$$1,200,000 \div 100 = @12,000$$

$$\text{龍馬 } 12,000 \times 60 = 720,000$$

$$\text{遼 } 12,000 \times 40 = 480,000$$

<組立部門>

$$300,000 \div 100 = @3,000$$

$$\text{龍馬 } 3,000 \times 20 = 60,000$$

$$\text{遼 } 3,000 \times 80 = 240,000$$

これで原価計算表を作ると

	坂本龍馬フィギュア	石川遼フィギュア	合計
材料費	700,000	500,000	1,200,000
労務費	160,000	240,000	400,000
製造間接費（切削）	720,000	480,000	1,200,000
製造間接費（組立）	60,000	240,000	300,000
合計	1,640,000	1,460,000	3,100,000
完成品数量	1,000	1,000	
完成品単位原価	1,640	1,460	
売価(2割乗せ)	1,968	1,752	

この結果で分析してみましょう。当社が部門別計算を採用していないとどうなるでしょうか？

競合他社が石川遼を 1,752 円で販売していると勝てません！！

競合が坂本龍馬を 1,968 円で販売していると勝てますが、ほとんど利益はあがりません。

石川遼が在庫になって、トータウ利益は赤字になります。

このように、できるだけ真実の原価に近づけるための方法が部門別計算なのです
では、次に補助部門費の配賦も含めた計算を過去問で確認しましょう。

③2級の復習（共通費の配賦）→部門費配分表
2級15回3問

【第3問】 費目別計算で各費目に集計された金額は、解答用紙の部門費配分表のとおりである。次の<資料>によって、部門費配分表を完成しなさい。また、計算の過程において端数が生じた場合は、円未満を四捨五入すること。（14点）

<資料>

1. 部門共通費の配賦基準

労務管理費……従業員数

建物関係費……専有面積

動力用水費……機械馬力数×台数

福利厚生費……労務費額

2. 部門別配賦基準数値

部門 配賦基準	A 部門	B 部門	C 部門	D 部門
労務費額	457,504円	376,768円	228,752円	282,576円
従業員数	7人	6人	3人	4人
専有面積	40.7㎡	31.9㎡	19.8㎡	17.6㎡
機械台数	8台	7台	6台	7台
機械馬力数	5馬力	4馬力	3馬力	2馬力

部門費配分表

(単位：円)

費目	合計金額	A 部門	B 部門	C 部門	D 部門
部門個別費					
材料管理費	46,090	15,600	12,700	8,560	9,230
機械経費	225,110	82,500	64,200	43,600	34,810
交際接待費	50,500	21,000	12,000	8,000	9,500
個別費計	321,700	119,100	88,900	60,160	53,540
部門共通費					
労務管理費	58,400	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
建物関係費	186,400	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
動力用水費	92,700	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
福利厚生費	35,600	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
共通費計	373,100	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>
部門費合計	694,800	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>

④補助部門費の配賦（直接配賦法・階梯式配賦法・連立方程式法）

1 級 17 回 4 問で解説します（過去問ゼミに画面を切り替えます）

【第4問】 福島建築工業株式会社は、近県で鉄筋工事を請負う建設業者である。第1部門と第2部門で工事を実施している。また、両部門に共通して補助的なサービスを提供している運搬部門、修繕部門および管理部門を独立させて、部門ごとの原価管理を実施している。次の<資料>に基づいて、下の設問に解答しなさい。

なお、計算の過程で端数が生じた場合は、各補助部門費の配賦すべき金額の計算の結果の段階で円未満を四捨五入すること。 (16点)

<資料>

1. 部門費配分表に集計された各部門費の合計金額 (単位：円)

第1部門	第2部門	運搬部門	修繕部門	管理部門
620,000	570,000	124,200	144,000	108,000

2. 各補助部門の他部門へのサービス提供割合 (単位：%)

	第1部門	第2部門	運搬部門	修繕部門	管理部門
運搬部門	50	40	—	10	—
修繕部門	45	45	10	—	—
管理部門	45	35	10	10	—

問 次の3つの方法によって補助部門費の配賦を行う場合、各補助部門から第1部門に配賦される金額の合計額をそれぞれ計算しなさい。

① 直接配賦法
 ② 階梯式配賦法（ただし、管理部門費を配賦の第1順位、修繕部門費を第2順位、運搬部門費を第3順位とする）
 ③ 相互配賦法の連立方程式法

	第1部門	第2部門	運搬部門	修繕部門	管理部門
	620,000	570,000	124,200	144,000	108,000

	第1部門	第2部門	運搬部門	修繕部門	管理部門
運搬部門	50	40	—	10	—
修繕部門	45	45	10	—	—
管理部門	45	35	10	10	—

【第4問】

① 直接配賦法 ￥

② 階梯式配賦法 ￥

③ 相互配賦法の連立方程式法 ￥

相互配賦法は 2 級過去問 20 回 4 問で確認しよう

【第 4 問】 東京建設株式会社は、工事は第 1 部門と第 2 部門で施工しているが、両部門に共通して補助的なサービスを提供している運搬部門、修繕部門、材料管理部門を独立させて、各々の原価管理を実施している。次の<資料>に基づき、相互配賦法（第 1 次配賦のみ相互配賦し、第 2 次配賦は直接配賦する簡便法）により解答用紙の「部門費振替表」を作成しなさい。 (14 点)

<資料>

(1) 各部門費の発生額

[施工部門]
 第 1 部門 ¥1,487,200 第 2 部門 ¥1,045,800

[補助部門]
 運搬部門 ¥266,000 修繕部門 ¥143,000 材料管理部門 ¥180,000

(2) 各補助部門の他部門へのサービス提供度合 (単位：%)

	第 1 部門	第 2 部門	運搬部門	修繕部門	材料管理部門
運搬部門	40	30	—	10	20
修繕部門	46	34	15	—	5
材料管理部門	48	32	5	15	—

摘 要	合 計	施工部門		補助部門		
		第 1 部門	第 2 部門	運搬部門	修繕部門	材料管理部門
部門費合計	3,122,000	1,487,200	1,045,800	266,000	143,000	180,000
(第 1 次配賦)						
運搬部門費 ()				_____		
修繕部門費 ()					_____	
材料管理部門費 ()						_____
(第 2 次配賦)						
運搬部門費 ()						
修繕部門費 ()						
材料管理部門費 ()						
合 計		× × ×	× × ×			

<マトメ>

練習問題 9.1

練習問題 9.2